

『アトリエ・ジャマイカ』

伊地知克介

登場人物

2017年、日本（アトリエ・ジャマイカと洞窟）

黄川田 女 絵画教室の経営者
黒木 女 2013年を舞台にした劇で白石を演じる
白石 女 絵画教室の生徒 医師
おばあさん（翠） 絵画教室の生徒
青山 男 市議会議員
赤城 女 2013年を舞台にした劇中劇でシルバを演じる
灰塚 男 2013年を舞台にした劇中劇で金医師を演じる
空（そら） 男 2013年を舞台にした劇中劇でコヨーテを演じる
老コヨーテ アフリカ人の政治家（ゲリラの後年）
通訳 言語堪能な日本人
スプレー男 大阪
のナゾの男

1945年 日本と中国（藤野家と洞窟）

翠 長女
紫乃 次女
桃 三女
漫画家 男
金 男 中国人兵士

2013年（アフリカの病院・ボランティア医師団）
金医師 男 中国人の医師（灰塚が演じる）
コヨーテ 男 ゲリラ（空が演じ、後年の本物も登場）
シルバ 女 アフリカ人の病院スタッフ（赤城が演じる）

舞台は①2017年の地方都市、トコハ市にある絵画教室「アトリエ・ジャマイカ」②同じ市内にある鹿間洞窟③1945年のトコハ市にある旧家「藤野家」④1945年の中国の洞窟⑤2013年のアフリカの難民キャンプに設けられた病院を舞台にした劇を市の文化祭で上演するため、練習中の公民館などを行き来する。

プロローグ

波の音

舞台上に登場人物が全員登場。それぞれ、思い思いの場所に座る。

スプレー男と黒木だけが座らず、スプレー男は歩き回り、黒木は静かにたずむ。

スプレー男 命は海から生まれた。

黒木 海？

スプレー男 生き物の進化。隕石の衝突。いろいろあって、人類の誕生だ。

人類、いるか？

黒木 います。

スプレー男 もっとうれしそうに言え。宇宙の奇跡だ。

黒木 私は別にうれしくありません。

スプレー男 人類は進化を続けた。道具が生まれ、炎が使われ、ことばが獲得された。人類はそこで欲望を持った。耐えられないほど強い

欲望だ。何に対するものか分かるか。

社会ですか。階級？支配？

黒木 芸術だ。音楽が先か、美術が先か。人は創った。音楽やダンス

スプレー男 は残らなかったが、絵画は残った。

洞窟の奥に。

黒木

スプレー男 これは、絵についての物語だ。人々は絵を巡り、言葉を交わす

だろう。

「アトリエ・ジャマイカ」の登場人物立ち上がる。

黄川田 本物の絵画よ。誰が何と言おうと、これは本物だわ。

白石 アトリエで生徒が待ってるわよ。戻りましょう。

「藤野家の三姉妹」の登場人物立ち上がる

漫画家 戦争が終われば、紙芝居でひともうけしよう。みんな喜ぶよ。

翠 あたし絵を習いたいわ。

「コヨーテしかその道を知らない」の登場人物立ち上がる

金医師 絵に描いてくれ。どんな花か、君たちの言葉で言われても、私たちに
は分からない。

赤城 診療所のセットはそこに絵で描いて。砲弾で穴があいた跡も描いてほ
しいのよ。でも、予算が足りないか。

スプレー男 進化は止まり、青春は過ぎた。人類はいま、不安を抱えて立ち
どまっている。

黒木 どうすればいいんですか。

スプレー男 知るか。

黒木を残して全員退場。

第1話 アトリエ・ジャマイカ1

黒木が語り始める。

黒木 岬へと続く緩い坂道を登ると、カモメの声が聞こえてきた。怖いほど青い海と、
絵画教室の赤い屋根が見えてくる。さらに海に近づくと、岬の突端にまるい麦
わら帽子がきれいに並んでいるのが見える。帽子をかぶった人たちがカンバスを
横一列に並べ、海を描いているのだ。足下では、たくさんのアリたちが白いチヨ
ウたちをバラバラにして運んでいる。

白石（登場し）藤野さん、どこ？（黒木に）あの、車椅子のおばあさんを見ませんでし
た？

黒木 いいえ。（白石退場）今のが、ドクター白石？そこを過ぎると、板ぎれを打ち付
けただけの絵画教室の看板が見えてくる。手書きの文字で、「アトリエ・ジャマ
イカ」と。私は岬へと坂を上ろうとして、ふと、足を止める。

黄川田、青山が登場。車椅子の翠が眠っている様子もうかがえる。黒木は立ち
止まり、黄川田と青山のやりとりを見守る

青山 （観客席を見て）素晴らしい。傑作だ。この絵のタイトルはなんと
いいますか。

黄川田 観客たち

青山 生きていて、今にも動き出しそうじゃないですか。

黄川田 そうかねえ。

青山 劇場で、演劇を見ている人たちを描いたんですね。

黄川田 映画だよ。

青山 映画？

黄川田 1935年の東京の映画館でミュージカルの「艦隊を追って」を見ていた人たち。このあとの日本は、軍色が強まり、坂を転げ落ちていった。そうなる前さ。このまちもひどい空襲があった。このなかの多くの人が命を落としただろうね。

青山 素晴らしい。買います。

黄川田 え？

青山 1000万円では？

黄川田 冗談でしょ、青山議長。あなた、絵画取引もやるの。

青山 その価値はある。

黄川田 同じシリーズでもう1枚あるんだよ。イラクの米兵たちが「スパイダーマン」を見ているやつ。

青山 それも買います。小切手で2000万円。

黄川田 急に金持ちになるっていいねえ。

青山 さらに1000万円で計3000万円。

黄川田 あと1000万円で何を買おうってのさ。

青山 (間) 忖度していただけませんか。

黄川田 忖度できません。はっきり言ってくれないとダメだね。あたしから、何を買いたいわけ。

青山 沈黙。

黄川田 あたしの沈黙はカネでは買えないね。

青山 気を悪くしないでください。先生その態度に、多くの人が迷惑しているんです。

黄川田 大いに気を悪くするね。

青山 高速道路ができることには、みんなが期待しているんですよ。

黄川田 このまちには橋脚が立つだけでしょ。景気もよくなるし、なにもならないよ。

青山 この地域全体に利益があるんですよ。

黄川田 橋脚を別のところに立てるなら、あたしは何も言わないよ。

青山 あそこしか土地はないんだ。

黄川田 青山議長、あたしは文化財を守れって言っているだけだよ。洞窟の入り口さえふさがなければ、反対運動なんてしない。

青山 洞窟の中に文化財なんかはない。あなたが言っている洞窟絵画は、妄想です。

黄川田 妄想じゃない。

青山 日本にはない。

黄川田 日本で初めて見つかった古代の洞窟絵画だよ。あたしが見つけた。プロジェクトXに出られる。

青山 あの番組は終わった。

黄川田 観光資源にもなる。

青山

はっきりした絵ならそうかもしれない。でもシカにも見えるけど、岩のシミにも見える、イノシシにも見えるけど、岩壁の傷にも見える、星にも見えるけど、洞窟の天井のへこみにも見える、そんな中途半端なものにだれが興味を持つんだ。

黄川田

だから専門家の鑑定を。

青山

それが迷惑なんだよ。工事が遅れたら、いろんな人のスケジュールに影響するんだ。

黄川田

スケジュール？1万年前の古代人の絵の話をしているんだよ。2年や3年がなんだっていうの。

青山

黄川田さん、あんたはただの……

黄川田

ただの絵描きで、ここはただの絵画教室。あたしにはあれが古代人の絵画だっていう証明はできない。だからこそ、専門家の鑑定を求めたいし、専門家が見る前に、コンクリートにふさがれてしまうのは避けたいの。

青山

その主張が多くの人に迷惑をかけるとしてもですか。

黄川田

主張する自由はあるでしょ。憲法に保障された言論の自由だよ。

青山

言論の自由はありますが、責任を伴います。

黄川田

沈黙は、責任を伴わないとも言うの。

青山

悪いことは言わない。小切手を受け取ってください。

黄川田

受け取れないよ。残念だけど。後悔しますよ。この人たちが（観客をさして）戦争なんてしなければよかったと、後悔したように。黄川田さん、いまが大事なんだ。

青山

いま、引き返さないと。あなたの未来には、私のいうことを聞いておけばよかったと、正しい道を選べば良かったと、後悔する時がある。

黄川田

議長、交渉決裂だね。

青山

この絵画教室はとてつもない評判がよいんですってね。黄川田さんが若いころ、祭りで何をやったか、なんてことはみんな忘れてますよ。だからこそ、慎重に行動してほしいんです。そうでないと、いつか後悔しますよ。

黄川田

今度は脅迫かい。帰ってください。

白石登場。

白石

こんにちは。あら、議長が来られてたんだ。

黄川田

いま、お帰りになるどころ。

青山

白石先生、読みましたよ。「アフリカ・スケッチブック」。とても面白かった。

白石

ありがとうございます。

青山

ベストセラー作家が出るなんて、まちの誇りです。

白石 そんな……この地域だけのベストセラーですよ。

青山 なんですか、舞台劇になるとか。

黄川田 そうなの？

白石 まちの劇団が脚色して、文化祭で上演したいって。でもどうなるかな……。

青山 期待してますよ。失礼します。

青山、去る。

白石 議長が来るって、どういうこと？洞窟絵画の保存運動に参加してくれるってこと？

黄川田 その反対。

白石 やっぱり。高速道路推進派ってなかなか手強いね。

黄川田 先生、診療時間中じゃないの？

白石 あ、そうそう。藤野さん見なかった？

黄川田 1時間ほど前から、そこにいるよ。絵を描きに来たのかと思ったけど、寝てるみたい。

白石 藤野さん、クリニックに帰ろうよ。なんか描こうとしているの？藤野さん。えっ。

黄川田 なんか言った？

白石 最近、変なこと言うのよ。戦争中の夢を見たりしてね。

翠 少しは世間というものを気にしなさい。

観客席から紫乃が立ち上がり、舞台へ。

黄川田 先生、ちよっとうちの花壇を見ない？きょうは新しいバラが咲いたのよ。

白石 ご自慢の花壇ね。見たいな。

黄川田 行きましょう。

黄川田、翠の車いすを押す白石が去ろうとする。白石、客席側の絵に目をとめる。

白石 あたしも、もう少し絵がうまくなりたいな。

黄川田 英語とスワヒリ語ができて、ルポルタージュが書いて、絵がうまい医者なんて、スーパーマンじゃない？欲張りすぎよ。でも、もうもう少しぼかすのを練習すれば、きつとうまくなるよ。

白石 あれ、どうしても苦手。

黄川田 人生には「ぼかし」も必要なのよ。あいまいさを楽しむこともね。

黄川田、黒木に気づく。黒木、一礼して立ち去る。黄川田、首をか
しげる。
紫乃を残して全員退場。

第2話 1945・藤野家の三姉妹 1

戦時中の日本である。観客席から桃が舞台上上がり、紫乃と向かい合
う。

桃 紫乃姉さん、その考え間違ってるわ。

紫乃 声が大きい。桃、あなた、もっと世間つてものを気にしなさい。

桃 だってもう限界でしょ。戦争を続けるのは。きょう商店街に行っ
たら、もうお米だってない。こんな状態で戦争なんて無理よ。

紫乃 我慢が必要なの。

桃 我慢すれば戦況が良くなるの。

紫乃 良くなってるでしょ。ラジオで聞いたじゃない。

桃 信用できない。

紫乃 なんてことというの。

(若い) 翠登場。漬け物樽を持ってくる。

翠 お漬け物、持って帰るよね。

紫乃 姉さん、この子に何とか言って。

翠 桃、少しは世間つてものを気にしなさい。

紫乃 表に聞こえたら大変よ。このうちは非国民がいるつてうわさにな
ったら、姉さんところに下宿する人もいなくなるでしょ。

翠 もうあんまりないけどね。

紫乃 国民が丸となって戦わなければいけない時なの。

紫乃も、あんまりきつく言わないの。桃だって、栄太さんが死んで、
女手一つで正太郎を育てていかなきゃならないんだから、大変な
のは分かるわよ。

桃 栄太さんがフィリピンで死んだのは関係ないわ。これからの話よ。

このまま延々と戦い続けたら、学童疎開している正太郎まで兵隊に
取られるのよ。紫乃姉さんのところの健太郎も兵隊に取られるのよ。
そして……。

紫乃 でも、ここで降参したら、アメリカに占領されるのよ。どんなにひ
どいことになるか……。

桃 このまま続けてもひどいことになるわよ。サイパン島がどんなこと
になったか、聞いたでしょ。

紫乃 うわさでしょ。ラジオではそんなこと言ってない。
だからラジオは信用できないの。

紫乃 子どものことを考えなさい。母親がそんなんじや。

桃 紫乃姉さんこそ、子どもたちのことを考えてよ。

翠 二人とも、落ち着いて。

紫乃 翠姉さんは黙ってて。

桃 この気持ちわかんないわ。家族いない人は。

紫乃 そうよ。お姉ちゃんは家族いないでしょ。

翠 なんてことを。

紫乃 とにかく、非国民みたいなこと言うのをやめないと、姉妹の縁を切らせてもらおうよ。

桃 こっちこそ、アホ軍人みたいなことばかり言うなら、縁切りだわ。

紫乃 アホ軍人とは何よ。撤回しなさい。

桃 姉さんに付け文をよこすのは、いつもアホ軍人。

紫乃 大尉とか中尉とか軍曹とか、軍人にばかり人気があるのは、姉さん自身がアホ軍人みたいな考え方だからよ。

紫乃 言ったわね。あなたに付け文をよこしたのは、釣具屋さんの栄太さん以外には、魚屋さんの権太さんに、船頭の久さんに、寿司屋のまっさんでしょ。

翠 2人ともえらくもらってるね。

紫乃 お魚に関係する仕事の人にばかり人気があるのは、あなたがアジやサバに似ているからじゃないの。それとも、タコかしら。

翠 もういいかげんにしなさい。2人とも申し込んでくれた人がいて、所帯を持たんだから、いいじゃないの。あたしなんて（呼び鈴が鳴り、翠「はい」と出ていく）

桃 みんな死んじやった。
え？

桃 今名前の出た人はみんな死んだの。フィリピンや中国で。紫乃姉さん、軍人たちはひどいわよ。寿司屋のまっさんが戦場で役に立つわけないでしょ。あんな包丁もちゃんと使えない、笑顔だけが売りのおすし屋さんに鉄砲を持たせて、最前線に行かせて。自分たちは安全なところにいるのよ。武さんが、けが一つした？中尉殿は、命令を出して、人を死なせて、ご自分は、どうしていらっしやるのかしら。

翠、戻る。

翠 （電報を手にかく然とした表情で）紫乃。

紫乃、翠の様子に夫の戦死を察し、立ち上がる。電報を手に取り、読む。

紫乃 (叫ぶ) ちくしょう。(冷静に戻り) 姉さん、健太郎の疎開先に連絡を取れるかしら。

翠 やってみる。

紫乃 (桃に) 命令を出すだけじゃなかったのよ。中尉殿は、武さんは、最前線に立ってたの。鉄砲を持って。

桃 姉さん。

紫乃 うちに戻るわ。

紫乃、退場。

桃 姉さん！

桃、退場。翠、漬け物樽を手に立ち尽くす。

翠 悲しいことばかりだね。

漬け物樽を置く。退場。すれ違いに白石が登場し、漬け物樽を手に取る。文化祭の準備をしている公民館になる。公民館ではアフリカの難民キャンプ内にあるクリニックを舞台にした劇の準備中。赤城、灰塚、空が登場。また爆発音。

第3話

2013・コヨーテしかその道を知らない1

白石 これは小道具？

灰塚 そう。アフリカのクリニックで先生が使った漬物樽にしようと思っ
て。

白石 こんなんじゃないかった。アフリカにこんなのない。

灰塚 何もかもそのとおりは無理ですよ。

赤城 白石先生、台本を書いた赤城です。

白石 ああ。はじめまして。白石です。私の本なんて演劇になるのかしら、
と
思
っ
て。

赤城 「アフリカ・スケッチブック」はとてもいい本です。なんといい
か……

灰塚 いい話だよ。にんげんの物語だよ。

白石 ありがとうございます。

赤城 ノンフィクションを演劇にするのは実は初めてで、うまく脚色でき
たか、正直、自信はないんです。でも、アフリカのことやNGOの
医療支援についてみんなに知ってもらおう機会にはなります。

白石 それには賛成です。

赤城
とはいえ、限界はあります。私たちのような地方の劇団はいま、厳しいんです。先生がまだこのまちにいないころですが、かつては劇団員ももっと大勢いて、注目もされてました。演劇雑誌に紹介されたこともあります。でも……

灰塚
一昨年は空前の東京行きますブームでさ。
去年は、空前の演劇やめますブーム。

赤城
厳しい闘いです。
分かります。

赤城
予算も限られているし、小ホールでの上演ですからね。ディテールの違いは、ある程度、目をつぶってください。そのうえで、ここだけは絶対に許せないということがあれば、それは言っていただけば。

白石
分かりました。

空
おれさ、どうしてもテロリスト？

赤城
もう変えないよ。

空
トロ子が白石先生ってどうよ？メンタルじゃ、無理じゃね？

灰塚
メンタルなんて軽々しく言うな

空
メンタルいげえの何だよ。トロ子、また遅刻じゃん。あいつ、ぜってえ、だめだよ。そのうちこなくなるんじゃないやね？

赤城
あなたがいじめるからでしょ。

空
いじめてねえよ。

黒木が登場し、ちょっと気まずい空気になる。

灰塚
おれの中国系カナダ人も難しいよ、先生、中国人みたいなんですか。それともカナダ人みたいなんですか。

白石
外見は完全に中国人ね。で、中身は完全にカナダ人。

灰塚
役作りシビアー。

赤城
始めよう。黒木さん、白衣が届いたから着て。

黒木
分かりました（白衣を着る。白石の役になる）

4人は舞台劇の練習を始める。台本を持ちながらの半立ち稽古で、灰塚が金医師、赤城がシルバ、空がコヨーテ、黒木は白石を演じる。

赤城
はいっ

金医師
ドクター白石、何をしていますか。

白石（黒木）
持ってきたお漬物がなくなったので、ここの野菜と香辛料を使って作ってみました。でもうまくいかなくて。

金医師
（食べてみる）アフリカのものを使うと、やっぱりアフリカの味になるね。

白石（黒木）　　ドクター金、帰国の準備は整ったんですか。

金医師　　今月末に帰国する便がとれました。ドクター白石は、あと半年だったね。

白石（黒木）　　もう少し長いです。8カ月かな。

金医師　　この仕事を終えて日本に戻ったら一度、モントリオールに遊びに来てください。ごちそうするよ。

白石（黒木）　　うれしいな。きつと行きますよ。

金医師　　この国の人が戦争をやめて野球場を作ってくれたら、もっと滞在してもいいんだけどね。早く野球を見に行きたいんですよ。

白石（黒木）　　カナダの野球選手もアメリカのメジャーリーグを目指すんですか。

金医師　　ドクター白石、これは知っておいてほしいのですが。

白石（黒木）　　なんですか。

金医師　　カナダにはメジャーリーグのチームがあるんです。トロント・ブルージェイズ。優勝したこともある。だから選手がアメリカに行く必要はない。日本とは違うんです。

白石（黒木）　　失礼しました。

砲撃の音（赤城が砲撃の音、ドドオンと口で言う）。

赤城　　ここでちょっと止めます。白石先生、ドクター金は、これはジョークっぽく言ってるのかな。

白石　　今のでいいと思います。ジョークなのかもしれないけど、すごくまじめな顔で言っていました。

灰塚　　ドクター金はもっとえらそうな感じ？

白石　　もっとジェントルマンな感じかな。

灰塚　　うへ、シビアー。

赤城　　よし、続けよう。東京の病院から（手をたたく）

金医師　　ドクター白石は東京の病院だった？

白石（黒木）　　あそこはやめるんですよ。生まれ故郷のまちで、診療所を開きます。トコハ市ってところです。

金医師　　聞いたことないな。

白石（黒木）　　日本人でもたいていは知りませんよ。田舎ですからね。観光資源や、大きな産業もないし。

金医師　　ドクター白石、なんでアフリカに？

白石（黒木）　　元々海外で仕事をするのが子どもの頃の夢でした。外国映画が好きで。自分の診療所を持つ前に、一度海外で、と思ったんです。

金医師　だからって戦場でなくても……。
白石（黒木）　大変だけど、やりがいがあります。
金医師　ドクター白石、あとは頼みます。
白石（黒木）　ドクター金のいない8カ月は不安ですけどね。頑張ります。
赤城　砲撃の音。ドドオン
金医師　きょうは激しいね。

シルバ登場。

シルバ　（赤城）　ドクター金、ドクター白石、えらいことが起きている。
金医師　どうした？シルバ。
シルバ　政府軍がダーヤ村の学校に間違っって迫撃砲を撃ち込んだ。
金医師　なんだって。
シルバ　子どもたちに大勢、けが人が出ている。
白石（黒木）　なんてことを。すぐ行きましょう。
金医師　ダーヤ村。
白石（黒木）　どこです。遠いんですか？
シルバ　ドクター白石、ダーヤ村、遠くない、近いが、行けない。
白石（黒木）　近いが、行けないって、どういうこと、
金医師　本当にすぐ近くなんだ。ここから2キロくらい。でもそこに行く
道に反政府ゲリラがとてつもない数の地雷を埋めた。
シルバ　地元の人間もあそこには行かない。
白石（黒木）　なんてこと。
金医師　シルバ、地図ある？

シルバ、地図を広げる。

金医師　3本、道がある。こことこことここ。
白石（黒木）　3本もあるのなら。
金医師　このうち1本には地雷がないって話なんだ。でも、どの道か分
からない。
シルバ　ゲリラしか、その道を知らない。
白石（黒木）　ゲリラは知っているんですか。
シルバ　彼らは知っている。その道を通って、彼らのアジトに物を運ん
でいる。
金医師　こんなに近いのに。

赤城、進行を止める。

赤城　ちょっと止めます。白石先生、ちょっと教えてください。こ

白石
の病院にはヘリコプターはないんですか。

赤城
アフリカのNGOの診療所で、ヘリを持っているところはほぼ、ないと思います。アフリカでは簡単に買えないんです。軍隊は持つてるけど、民間ではね。

赤城
なるほど。でも観客はその辺の事情を知らないから、灰塚さん、ここで「ヘリコプターがあればな」って言葉を入れましょう。

灰塚
ヘリコプターがあればな。アフリカ、シベアー。

赤城
OK。じゃあ、黒木さん、ゲリラは知っているんですか、から。

白石（黒木）
ゲリラは知っているんですか。

シルバ
彼らは知っている。その道を通って、彼らのアジトに物を運んでいる。

金医師
こんなに近いのに。ヘリコプターがあればな。

白石（黒木）
ゲリラに聞きましょう。

金医師
え？

白石（黒木）
昨日、撃たれて運び込まれたゲリラがいたじゃないですか。

金医師
死んだんじゃないのか？

シルバ
ドクター白石が生き返らせた。

白石（黒木）
死んでしまった人はけっして生き返らないわ。シルバ。瀕

死の重傷でしたが、なんとか意識は取り戻しました。

金医師
しゃべれるのか？

シルバ（黒木）
けさはしゃべっていた。呪いの言葉だったが。

金医師
そいつにかけてみるか。

シルバ
賛成できない。

白石（黒木）
なぜ？他に方法がないよ。

シルバ
ドクターは知らないんだ。彼は大変危険。ゲリラの中でも恐れられてる。コヨーテと呼ばれている。

白石（黒木）
コヨーテ？

シルバ
銃と仕掛け爆弾の遣い手で、たくさん死なせてる。大変危険。殺した後、笑う。

金医師
笑うって？

シルバ
何人も聞いている。声を上げて笑うんだ。

金医師
連れてきなさい。そいつに聞こう。

シルバ
ドクター

金医師
仕掛け爆弾の遣い手なら、記憶力はいいはずだ。

シルバ、去る。

白石（黒木） 声を上げて、笑う。

金医師 声を出して笑うのは、緊張状態をほぐして、体を正常に

動かす一番いい方法だ。

白石（黒木） 意識的にそうしているのなら、相当、頭のいいゲリラです
ね。

シルバ、車椅子に乗せてコヨーテを運んでくる。

金医師 私の声が聞こえるか。

コヨーテ、動かない。

金医師 政府軍が間違っって学校に迫撃砲を撃ち込んだ。ダーヤ村の子ど

もたちが大勢、けがをしている。私たち医者が助けに行かないと

あんたの助けがいる。分かるか。あんたたちはダーヤ村に行く
道に大変な数の地雷を埋めた。それを恐れて、だれも村に行こ
うとしない。

コヨーテ、動かない。

金医師 私たちは子どもたちを助けることができる。そこに行きさえす

れば。彼らのために私たちは、村に行きたいんだ。

コヨーテ、金医師をじっと見る。

金医師 彼らのところに行く道を教えてくれ。地雷のない道だ。

コヨーテに地図を示す。

コヨーテ 地図は読めない。

白石（黒木） 何か目印はないの。安全な道の入り口には。

コヨーテ 道が3本に分かれている。2本は人が死ぬための道、1本は
人が生きるための道だ。私が目印にしているのは大きな木だ。
奇妙な形の花が咲いている。年中咲いているんだ。それが目
印だ。その下をくぐって入っていくのだ。

白石（黒木） 年中、咲いている奇妙な形の花。

コヨーテ、立ち上がって地図とボールペンを奪い取る。そして、地図
の上に奇妙な形の花の絵を描く。そして、戻り、車いすに倒れ込むよ

うに座る。

白石（黒木）　　こんな花があるの？

金医師

（花の絵を携帯電話で撮影する）ドクター白石、私が先に行きます。ダーヤ村に着いたら連絡するから、シルバと後から来てください。

白石（黒木）　　分かりました。くれぐれも気をつけて。

金医師、出ていく。

白石（黒木）　　あなた、絵が描けるんだね。

コヨーテ、反応しない。

白石　　（黒木、包帯などを準備しながら話す）絵が描けるって、素晴らしいことよ。あなたはたくさんの人を助けることができる。本当よ。この国が必要としているのは、多くの子どもたちを助けられるのは私たち医者じゃない。ポスターを描く人です。水は沸騰させてから飲み、肉はよく焼いてから食べる、食事は手を洗ってから。銃は子ども手が届かないところに置き、ここは地雷原だ、入るな。字が読めない人が多いから、絵を使って説明したポスターが必要なのよ。私には描けない。たくさんの人を殺したそうね。でも、ポスターを描けば、もっとたくさんを救えるの。子どもたちを病気や事故から守れるのよ。こういうポスターも描けるんじゃない。銃を置いて、畑を耕そう。人を撃つのをやめて、みんなで手をつなごう、うらみを捨てて笑顔で暮らそう。

シルバ　　ドクター白石。言葉届いていない。コヨーテ、気を失っている。

白石　　（黒木、近づき、命に別状ないのを確認した上で）ベッドに運んで（シルバ、コヨーテを連れて退場）

赤城がドドオン、という。

白石　　（黒木、携帯電話を手に取り、見つめ、舞台の外のシルバに呼びかける）シルバ。ドクター金からメールが来たわ。安全な道を通り抜けた。ダーヤ村は近い。すぐに準備を。

黒木、退場。本当に迫撃砲の音が聞こえてきて、音楽。白石、絵筆を手にする。

第4話　アトリエ・ジャマイカ2

白石が絵筆を手に、自分の描いた絵を見つめている。黄川田、黒木登場。
黄川田は黒木の手をしっかりとにぎり、アトリエにひきずりこむ。

白石 何？

黄川田 自殺志願者。

白石 黒木さん？

黒木 先生

黄川田 知り合い？

白石 劇団で、あたしの役をやっている子よ。

黄川田 死なれちゃ困るじゃない。

黒木 死のうとしてません。

白石 あたしの役をやるのが死ぬほどつらかったわけ？

黒木 だから、死のうとしてませんって。

黄川田 じゃあ岬で何をしてたのさ。

黒木 見ていただけです。海を。

黄川田 わざわざ自殺の名所の柵の向こう側でかい。

黒木、黙る。

黄川田 淡雪岬なんてきれいな名前だからさ。みんな勘違いするんだよ。あの岬の下はね。とがった岩がいっぱい海から突き出てるんだよ。飛び降りるとね、死体はずたずただよ。いくつにも引き裂かれて死ぬんだ。上半身だけとか、体右半分だけとか、首なしとかで海岸に流れ着くのさ。きれいなもんじゃないよ。

白石 それをあたし、検視してるのよ。

黒木 (黙る)

白石 死ぬんなら、医者がヒマな場所で死んでよ。

(自分が絵筆を持つてるのに気づき) あたしヒマだから絵を描いてるんじゃないのよ。

黄川田 だれもヒマだと言ってないよ。

(黒木に) あたしはアフリカであんたくらいの人で死んでいくのをいっぱい見た。死にたくないっていいながら。全員は助けられなかった。なんか事情はあるんだろうけど、それでも、命はムダにしちゃだめだよ。劇に出たくないんなら、あたしから赤城さんに言ってあげる。

先生になっっている間は、私、生きていられるの。

え？

白石先生になっっている間は、生きていられる。でも稽古が終わ

黒木

白石

黒木

白石

黄川田

白石

黒木

白石

って1人になると……

黄川田、白石、顔を見合わせる。

翠 家賃を払ってください。

白石 藤野さん。

黄川田 寝言でしょ？。

第5話・1945・藤野家の三姉妹2

漫画家が客席からスケッチブックを抱えて登場、しばらく相対する。
白石、黒木、黄川田去る

翠 はい、なんでごさいますよう。

漫画家 あの、家賃のことで。

翠 (大喜びする) やった！ありがとうございます。やっと払ってもらえるのね。もう私心配で心配で。妹たちにも、なんで家賃の払えないよ
うな人に部屋貸すのよって責められて立場なかったんですよ。うれし
いわ。よかったわ。ほっとしたわー。私はきつと払ってもらえるわよ
ってずつと言ってたんだけど、本当は心配で。ありがとうございます。

漫画家、うつむく。間。

翠 あの、何か月分、払っていただけなのかしら。

漫画家 あの……

翠 どうされました？

漫画家 (思い切って) お金がありません。家賃の代わりに、あの、翠さんの
似顔絵を描いて持って来ました(見せる)

翠 いらんわっ。

漫画家 すみません。

翠 あら、ごめんなさい。あたしとしたことが。失礼しました。私ったら、
ときどき、よくない態度や発言をしてしまいますの。

漫画家 いえ、私の方がよくないので。

翠 家賃ですけど、現金でということ初めからのお約束でございます。

漫画家 絵でお支払いというわけにはいきませんわ。お納めください。

漫画家 はい。

翠 あの、立ち入ったことを申しますが。

漫画家 はい。

翠 もう少し普通のお仕事をされるといのはいかがですか。

漫画家 普通の仕事とおっしゃいますと？

翠 同じ物語を考えるお仕事でしたら、小説ですとか、お芝居の台本ですとか、いろいろあるのではと。

漫画家 漫画には漫画の良さがあります。例えば外国の人ですね。小説ですと、翻訳しないと読んでもらうことができません。しかも外国語に直す過程で文章の良さは7割方、失われると言われています。伝わらない。漫画なら、例えば（スケッチブックにりんごを描く）フランス人が見ても、エチオピア人が見ても、りんごです。

翠 この時代、どこの外国の方にりんごの絵を見てもらいます？

漫画家 戦争をやめないとダメですね。

翠 声が大きいです。

漫画家 すみません。

翠 どちらにしても、家賃を払っていたかかないと、私としては困ります。

漫画家 払いたいと思っています。

翠 思うだけでは困ります。いつお支払いいただけますか。

漫画家 ふたっきのちには。

翠 ふざけんな。

漫画家 すみません。

翠 あら、またよくない物言いをしてしまいました。申し訳ありません。

漫画家 いえこちらも良くないので。

翠 できるだけ早く、なにとぞよろしくお願いします。

漫画家 はい、できるだけ早くで。

出ていこうとして振り返る。

漫画家 あの、実はですね。別の用事もあって。

翠 別とおっしゃいますと？

漫画家 あの

翠 はい？

漫画家 あの、詩をつくりました。

翠 詩でございますか？

漫画家 はい。

翠 詩もつくられるんですか。器用な方ですね。器用貧乏といいますが。

漫画家 あはは。うまいことをいいますね。翠さんのことを、あの、いつも

見ていて、詩にしたいなあ、と思ひまして。

翠 待ってください。私のことを？

漫画家 はい。あのお暇なとき、読んでみてください。

封筒を渡して逃げようとする。

翠 またんかい。

漫画家 はい。

漫画家 あ、ごめんなさい。またよくない言い方を。あの、これ。

漫画家 はい、

漫画家 読んでください。

漫画家 は？

漫画家 ここで、読んでいただけませんか？

漫画家 あ、それは、あの、恥ずかしいので。

漫画家 いいから、読めや。

漫画家 え？

漫画家 あ、いけない。お願いします。声で聞きたいので。

漫画家 はい。それでは。

翠 (読む) ポヨポヨ、ポワポワ、ポヤンポヤン
は？

漫画家 ポニャポニャ、ポワワン、ポワリンコン

翠さんがやってくる。

ポニョポニョ、ポワット、ポンポポポーン

井戸から水をくむ。キュウリを洗う。表に水をまく

ポノポノ、ポワラン、ポポポポポ

日常のなんでもないことが

ポカポカ、ポロロン、ポロポロリン

そこに光が生まれてきて

ポタポタ、ポケポケ、ポコポコポーン

美になる、真実になる、歴史になる

ポレポレ、ポラポラ、ポロイポロイ

馬が走るはやさで、人生は過ぎていく。

ポンポン、ポコポコ、ポロロンポロロン

でもそこに光がある。

君がいれば。

君が少女なら髪にリボンを結びたい。

おばあちゃんなら、咳をするとき背中に手を。

今は見ているだけだけ。

ポニャポニャ、ポニャポニャ。ポニャンポニャン

翠さん、ありがとう

以上です。

翠 なんで1回1回ポニャポニャとか入れるんですか。

漫画家 これはなんとなく。

翠 でも、ありがとうございます。

漫画家 え？気に入ってもらえたんですか。

翠 ええ。ポニヤポニヤというのはない方がいい気がします。

漫画家 また、推敲します。きょうはありがとうございます。

翠 お待ちになってください。

漫画家 はい？

翠 晩ご飯、食べました？

漫画家 いえ、その

翠 食べていかれません。たいしたものもございませんが。

漫画家 はあ、あの、喜んで。

2人去る。漬け物樽が残される。入れ違いに白石医師（黒木）が登場して樽を手取る。遠くで爆発音。アフリカの野戦病院を演じている人たちになる。今回は台本が手から離れている人もいる。

第6話 コヨーテしかその道を知らない2

白石（黒木）は、漬物樽で何かを作っている。

赤城 OK、OK。次、コヨーテがシルバの首にナイフを突きつけるところをやりましょう。コヨーテ来て。

赤城と空、シルバとコヨーテになる。

コヨーテ、ナイフを出してシルバの首に突きつける。

コヨーテ 表のドアを開ける。トラックのキーをよこせ。

白石（黒木）（登場して）やめなさい。

コヨーテ こいつを殺すぞ。

金医師銃を持って登場。だがコヨーテ、見るからに弱っていて、しばらくすると倒れる。シルバ、素早くナイフを取り上げる。

金医師、コヨーテを引きずっていく。

赤城 はいっ。（全員日本人に戻る）先生教えてください。コヨーテはなんでナイフを持ってたんですか。病室にそんなの置いてないでしょ。

白石 ベッドの脚だったの。

赤城 え？

白石 ベッドの脚の一部を割って、床にこすりつけてとがらせた。

赤城 じゃあ、それを作らなきゃ。ナイフを使うと、うそになっちゃ

空　　う。

赤城　小道具多すぎー。今のでいいよー。赤城さんみたいに細かいこと気にする人、お客さんにいないって。

空　　そういう細かいところが大事な。

赤城　めんどくさー。ああ、おれプロレスの方に出ればよかったー。プロレスにもさそわれてたの？

赤城　あ、時間切れだわ。きょうはここまでにしましょう。明日は5時からね。

空　　はーい。

黒木　おつかれさまでした。

白石　（黒木に）黄川田先生と洞窟見に行く約束してさ。あなたもこない？

黒木　え？

白石　黄川田先生がぜひ連れてきてって。

赤城　あれはぜってえー、絵じゃないよー。そう言ってやりなよー。白石先生、気をつけた方がいいですよ。

白石　何を

赤城　まちの人間には、黄川田先生に本気で腹を立てている者もいるんですよ。

白石　高速道路期成会のみなさんだけでしょ。

灰塚　高速道路にはいろんな人間がかかわっているからね。巻き込まれたらシビアなことに。

赤城　黄川田先生の絵画教室とは距離を置いた方がいいと思います。危険ですよ。

灰塚　第一、あれが絵に見えますか。ぼくは生では見てなくて、黄川田先生がまちじゅうに配ったビラの写真で見ただけだけどさぜってえ、ちげえよ。岩のシミかなんか。

空　　私も確信を持ってあれが絵だとは思わないわね。

白石　じゃあ、あっちの側に立ってると思われない方がいいですよ。

赤城　でもさ、ロマンを感じるのよね。黄川田先生の言うとおりなら、1万年以上前から、このまちで芸術活動があったわけじゃない。ロマンはカネにならないよ。

灰塚　カネがすべてなら、あなたたちはなぜ、演劇をやっているの？

白石　行くわ。

黒木　白石と黒木、懐中電灯を手にする。洞窟の中になる。劇団員ら、去る。

白石、黒木、黄川田が並ぶ。

黒木

海鳥の声を聞きながら、洞窟へと続く海辺の道を2歩歩いた。潮の香りでいっぱいジグザグの道で、息切れがした。洞窟が突然、見えてきた。海の青、山々の緑の間にぼっかりと、そこだけ色のない空間。宇宙まで続いているのではないか、そう思わせるほどの深い闇がそこにあった。何か大きなものに触れるような気持ちで私は洞窟に入った。(3人、懐中電灯をつける)懐中電灯を手にはしばらく進むと、その場所があった。

黄川田

どう？

黒木

あたしにはシカに見えません。

黄川田

シカだってば。

白石

これが古代絵画だって最近気づいたの？

黄川田

高校生のとき

黒木

そんなに前？

黄川田

ずっと私だけの秘密の場所だった。ずっとそうしておこうと思ってたの。でも

白石

高速道路ね。

黄川田

入り口をふさがれてしまうなら、ほっとくわけにはいかない。そう思ってね。

黒木

でもこれ、絵じゃないですよ。

黄川田

絵だって。シカと、星と、イノシシと、クマ。ここに小さな鳥。

白石

動物たちなのね。

黒木

そうかなあ。

白石

あたし、他のはそうかもって思うけど、鳥がちよつと疑問だな。

黄川田

そういうひと、多いね。

白石

鳥の羽は分かるけど、鳥を描くんなら、こんなタテの線はないんじゃない？

黄川田

鳥人間かもしれないね。

黒木

鳥人間？

黄川田

フランスのラスコー洞窟に描かれているの。鳥人間。クロマニヨン人は頭が鳥で、体が人の鳥人間を描いてた。遠く離れたところで、

白石

古代人が共通のものを描いていたなら、面白くない？

黄川田

実際に鳥人間がいたってこと？

白石

まさか。人の空想することは場所が違って同じってことよ。

黄川田

高校生の時に、ここで何をしてたの。

黄川田

(黒木に)あなたと同じよ。

黒木

えっ

黄川田

死んじゃおうかと思ったんだ。未来も信じられないし。たばこで補導されて停学にはなるし、美術部は退部させられたし、彼氏はふたまた

かけてたし。もうどうにもならんな、と思ったんだ。

黒木

あたしは、そういうのじゃありません。

黄川田

家、薬局だったから、睡眠薬ごっそり盗んで、洞窟に入って、できるだけ奥まで行って、がぼっと飲んだ。

白石

そんな秘密の出来事があったのね。

黄川田

それが秘密じゃなくて、まちじゅうの人が知ってるの。

白石

なんで？

黄川田

あたしね、そこに横になって。最後の一服だ、ってライターで。そして。火の中に浮かび上がったんだ。洞窟の天井に星が。あわてて起き上がった。周りを見渡した。くっきりと見えたの。走る大きなシカ、前足を振り上げて起き上がる獐猛なクマ、山を駆け上がるイノシシ。見えたんだ。

白石

あたしには見えない。

黒木

あたしには見えない。

黄川田

うそ。だれがこんなところに絵を描いたの。火を近づけて、鳥を見つけた。小さな鳥。飛べるかどうか分からない小さな翼。その瞬間分かった。

白石

古人だ。

黄川田

そう。何十世紀も前の人々が、洞窟にこもり、動物たちを描いた。その姿が浮かんできたの。

白石

クロマニヨン人たちのようにね。

黄川田

ありえない。なんでか、そのとき思った。死ぬなんてありえない。でも、睡眠薬はもう飲んでしまった。まずい。

白石

ここだと、周りに人もいないしね。

黒木

家もない。

黄川田

立ち上がって、走り出した。洞窟から外に出た。満天の星。でも、周りには誰もいない。私はけものみちを走った。あんなに必死に走ったのは、人生で一度だけ。でも、まちの明かりは近づいてこない。

白石

離れてるものね、まちから。

黄川田

薬で体が重くなってきたのも分かる。死んじゃう。助けて。そのとき

みこしをかつぐ男たちのわっしょいという声が聞こえてくる。

黄川田

おみこしが。

黒木

祭りの練習してたんだ。

白石

練習なんてするの？

黒木

するんです。今でもこのあたりで。

黄川田

そうなの。がけの下の道を、まちに向けて進んでいくのがわかった。あの人たちが助けてくれる。でも、私はがけの上のけものみちを走っていて、おみこしは海沿いの道を走っている。私に気付くわけない。このままだと置いていかれる。声を出そうとしても、もう出ない。こ

のままだと死んじゃう。
黒木 海沿いの道は、ここからだいぶ下ですからね。
黄川田 追いかけた。必死だった。死ぬもんか。絶対に死ぬもんか。おみこし
ががけの下に見えた瞬間、私は飛び降りたの。助けてって、声になら
ない声で叫びながら。死にたくないって、叫びながら。

わっしょいという声が消える。

黄川田 おみこしはめっちゃめっちゃに壊れ、私は両足を骨折して病院送り。みんな
怒り狂ってたわ。でもね、命は助かった。

白石 なぜその時に周りに洞窟絵画だって言わなかったの。

黄川田 入院しちゃったしね。骨折で。退院したときには、もう人に言える状
態じゃなかった。私1人のものでして、ときどき見て、楽しめればい
いんじゃないって、そう思ったの。高速道路の話がなければ、一生黙
ってたかもね。不思議なの。なぜあるとき、ライターの火をつけたの
がここだったのか。もう少し奥でも、手前でもこの絵には気づかなか
った。

白石 動物たちを描いた人にあなたは導かれたのね。

黄川田 そんな気がするのよ。

黒木 耳をすませば、聞こえない声が聞こえる。

白石 藤野さんと一緒ね。

黄川田 藤野さんも、きつと藤野さんにしか聞こえない声を聞いているのよ。そ
れに答えてるんだわ。

白石 そうかもしれない。この間なんかおかしいのよ。「結婚したい人がい
る」って。

黄川田 なんで？あの一と100歳でしょ。

客席から紫乃と桃が登場。

白石 だれかの聞こえない声と、藤野さん話しているんだわ。

4人、去る。すれ違いに（若い）翠が登場する。

第8話 1945・藤野家の3姉妹

紫乃 翠姉さん、なんとか言ってください。私も

何が何でも反対ってわけではないのよ。他に誰もいらっしやらないの、
って言いたいだけ。

桃 紫乃姉さん、そんな言い方では身もふたもないわ。

紫乃 あなたは黙ってて。それとも桃、あなた賛成なの。

桃 そんな、賛成も反対も。翠姉さんがだれと結婚しようと、妹のあたしが賛成とか反対とか言える話じゃなくてよ。
私だって妹ですけどね。賛成できないものは賛成できないわ。こともあろうに、漫画家と結婚するなんて。

桃 紫乃姉さん、職業に貴賤はないというわよ。
貴賤はないと言っても、漫画家よ。漫画家。

桃 今でこそあまり尊敬されない仕事かもしれないけど、六十年七十年たったころには、大変な利益を生む仕事になっているかもしれないわ。
日本人の描く漫画は面白くなって、世界中から買い手がついて。また桃の変な予言が始まった。

紫乃 予言って言わないで。六十年七十年たったころのことを考えるのが好きなだけ。きっと犬や猫だけでなく、人々はいろいろな世界の生き物を飼うようになっていっているのよ。ヒョウとか、ペンギンとか、イグアナとか。

紫乃 桃。翠姉さんの結婚問題に話を絞りましょう。

翠 2人とも、かりんとう、食べない？

2人 (喜ぶ) あるの？

翠、かりんとうを出す。

翠 きのう、おじさまから送ってこられて。今では貴重品よ。

3人、分けて食べる。

紫乃 甘い物なんて久しぶりに食べたわ。

桃 チョコレート食べたい。

紫乃 ぜいたく言わないの。

翠 そう、ぜいたくは敵。

桃 国民にチョコレートも食べさせないで、戦争に勝てるわけないわ。

紫乃 桃

翠 声が大きい。

桃 ごめんなさい。でも、こんなこと、長くは続かないわよ。

翠 桃、少し予言は慎みなさい。今はそういうときではないわ。

紫乃 そうよ。あとチョコレートとか言うのもやめて。私まで食べたくなくなるじゃない。

3人、笑う。

紫乃 映画見たいな。3人で見たよね。「艦隊を追って」。ああいうの、また見られるのかな。

紫乃、タップダンスのまねをする。桃も一緒に踊る。

桃 戦争が終わればね。

翠 またそういうことを言う。

紫乃 男がみんな戦争に行ったから、映画に出られる人がなくなっちゃうよね。

桃 あ、いいこと考えたのよ。

翠 またなんか変なこと考えてる。

桃 変じゃないわよ。役者さんがいなくても、映画をつくる方法。(スケッチブックを持ってくる) やったことない。ばらばら漫画。

紫乃 なに、それ。

桃、スケッチブックに描いたダンサーの絵をばらばらめくって、動かしてみせる。

紫乃、翠 おー

桃 漫画家さんに勧めてあげればいいわ。とてもお金がもうかると思うのよ。漫画をちよつとずつずらして描いて、こうやってめくると動いて見えるの。映画館に大きなスケッチブックをとりつけて、映写技師はそれをばらばらって。

紫乃 ふつうのスケッチブックもいまは貴重品なのよ。

翠 そんな大きなの、どこで売ってるのよ。

桃 だめか。これでもうけられるのって、50年後かな、100年後かな。

紫乃 50年後とか、100年後も戦争はしてるの？

桃 してないといいいけどね。焼夷弾がすごいものになってると思うのよ。嫌なこと言わないで。

桃 家一軒燃やすくらいじゃなくてさ、落ちたら爆発して、その光と熱で、人間とか、まちを、消し去ってしまうようなのが、できるのよ。そして残酷なやつらは、それを使うんだわ。

翠 人間は消せないわ。

紫乃 消えたら、お葬式もできないじゃない。

桃 もちろんこれは私の想像。嫌だけどね。50年先、100年先も、残っていたもんね。もし死んじゃったとしても、誰かが私のこと、覚えていてほしいもんね。まちごと消えちゃったら、それもできないものね。

翠 桃、そんなこと考えないの。

桃 50年後とか、100年後の人は今の私たちのことをどう思うんだろう。食べたいものも我慢して、夫は戦争に送り出して。しか

紫乃 もバンザイして送り出したのよ。
私もそうした。

桃 ね、未来の人たちの声が聞こえない？ 「おバカさんだよね」つて、笑う声が。

翠 やめなさい。

紫乃 人に聞かれたら大変なことになるわよ。

桃 武さんのお葬式。紫乃姉さん、立派だったわ。

翠 気丈だったよね。

紫乃 自分が何着ていって、なにしゃべったか、全然覚えてないの。

桃 あたしも栄太さんのお葬式でそうだったな。

紫乃 あたし何しゃべった。

翠 桜の話してたよ。

紫乃 あ、武さんが好きだった。

翠 故人は桜の木が好きでした。桜が咲くのを見た時、故人を思い出してください。そう言ってたわ。

紫乃 軍人の妻らしくないわね。

桃 いいんじゃない。それでいいのよ。

翠 本当よ。

桃 あたしもそういうの、言えばよかった。

翠 栄太さん、何が好きだった。

桃 動物園。

紫乃 動物園行ったら、故人を思い出してくださいって。

桃 それも変か。

翠 よく2人で行ってたよね。

桃 でもね。2人で歩いてたわけじゃないのね。私ペンギンの前に行くと、そこから動かないでしょ。

紫乃 この子はいつもそう。母さんに子どもの頃連れてってもらって、初めてペンギンを見て以来、あの鳥の前に行くと、全然動かなくなっちゃうの。

桃 栄太さんは歩き回るのが好きなのね。いろんな動物の間を。だからいつも別行動。

翠 そうだったんだ。

紫乃 武さん、アコーディオン好きでさ。

翠・桃 アコーディオン？

紫乃 本当は軍人じゃなくて、音楽家になりたかったのかもしれない。桜の下で、お花見の人たちに、弾いて聞かせたりしたかったのかも。でもそんなこと言えなかったのかな。いつも一人、部屋で弾いててさ。あんまり人にそのことを言いたくないのかと思って、聞かなかったの。何曲弾けるの？とか、聞いてあげればよかった。何の曲が好き、とかね。

翠 長女って損だわね。あんたたちは「ご主人は？」って聞かれて「戦争で失いました」って言える。でもあたしは、それも言えないのよ。

紫乃 最初からいないんだから。結局、あたしだけ損じゃない。家柄が釣り合う人しかだめ、仕事がちゃんとしてなけりゃだめ、家を継いでくれる人じゃなけりゃ、とか。そんなこと言ってるうちに戦争になって、男の人はどんどんいなくなってる。あんたたちはとっととお嫁に行ってる。あたしだけ、思い出話もできない。大損じゃないの。どうなのよ。分かっている。分かっているわよ。だからこそ、姉さんには、とびきりいい人と一緒にあってほしいのよ。あせって、漫画家なんかと一緒にあってほしくないの。

翠 あせってなんか、なくてよ。仕事がなんだって、いい人はいい人なの。私と相性もいいのよ。

紫乃 翠姉さんもいつとき、絵を習いたいって言ってたわね。

桃 もしかして。

紫乃 なに？

桃 もう一緒に住んでるの？今、この家のどっかにいる？

紫乃 まさかあ。(翠の顔色が変わるのを見て) いるの？

翠 いいえ。そんなこと。

紫乃 だめよそんな、祝言も挙げてないのに一緒に住むなんて。藤野家の評判が下がるでしょ。姉さん、そんなのダメよ。

翠 だからそんなことしてないわ。

桃 隠れてるんじゃない？(鍋を持ち出し、たたきながら) 空襲だ、空襲だ、防空壕に避難！防空壕に避難！

軍服姿の漫画家、あわてて飛び出してくる。

漫画家 空襲？空襲？

桃 ごめん、うそ。

漫画家 あ。

翠 あなた、そのかっこうは？

紫乃 初めまして。(あらたまってあいさつする) 妹の紫乃と申します。

桃 (あらたまってあいさつする) さらにその下の妹で桃と申します。

紫乃 姉のことをよろしくお願いします。

桃 よろしくお願いします。

漫画家 いや、こちらこそ。

紫乃 漫画家さんでいらっしゃるんですね。

漫画家 ええ、あの、今月末までです。

翠 え、どういふこと、

漫画家 いや、その、あれです、これが来ちゃって。来月から、兵隊です。

召集令状を見せる。

翠 赤紙、赤紙が来たの？なんてこと。

紫乃 ご武運をお祈りします。

漫画家 ありがとうございます。

翠 なんてことなの。

桃 負けるんだわ。この戦争は負けるんだわ。

紫乃 桃、なんてこと言うの。外に聞こえたら大変よ。

桃 だって、紫乃姉さん、こんな人までかり出すのよ。どう考えたって、

役に立たない、こんな人まで戦場に送って。この人は中国の山の中で、部隊からはぐれて、たった1人で雨の中をさ迷い歩くんだわ。戦場では弱い者は生きてはいけないのよ。戦争にはきつと勝てないのよ。勝てないって分かってるのに、やめようとしなないんだわ。

桃が飛び出していく。翠と紫乃がそのあとを追う。漫画家は銃を持つ。つ。中国の洞窟の中に物語が移る。

第9話 1945・中国の洞窟 1

雨の音、雷鳴

漫画家

前略、翠さま。戦場に来て1カ月がたちました。けっこう楽しくやっています。私には兵隊の素質があるみたいです。じゃんじゃん、相手を倒しています。くそ。雨降って来やがった。ここはどこだ（地図を出す）。わかんねえ。完全に迷ったぞ。あの子に言われたとおりになってるじゃねえか。やっぱりダメだ。おれは戦争に向いてねえ。とりあえず、この洞窟で雨宿りと行くか。おじやましまあす。誰もいませんよねえ。絶対いないよね。

金、登場。2人、鉢合わせしてともに悲鳴を上げ、隠れる。

漫画家

降参、降参、おれ全然闘う実力ないし。これ？銃だけど、弾なくなつた。これ、ペケ。

2人とも降参ポーズ。そのあと、2人とも戦う構え。また2人とも降参。そのあと、にらみ合い。金、身振りで「自分は脱走したのだが、おまえもか」と聞く。

漫画家

え？脱走したの？あ、おれは違う。道に迷ったの。戦争する気がないわけじゃないのね。でもまあ、あんまりないけどね。

再びにらみ合う。

漫画家 (なんとかコミュニケーションをとろうと身振りを交えながら) あなたさ、兵隊になる前って、何?(くわで耕すまねをして) 農家?

金、首を横に振る。木の棒を使って洞窟の壁面にシカの絵を描くが、シカに見えない。

漫画家 鬼?鬼ってことはないな。なんか動物か。牛?酪農家?

モー、モー。違う。

金、鉄砲を撃つまね。

漫画家 分かった。鉄砲撃ちね。これはシカ?シカに見えないよ。シカなら、こう描くの。

漫画家、ひとふでがきでシカを描いてみせる。金、感心する。

漫画家 うまい?おれは漫画家だからね。漫画家、分かる?分からないよね。(身振りで)ね、なんで脱走したの?ねえねえ。

金、自慢げにたるを持つてくる。

漫画家 たる?なんだろう。つけもの?開けていい?木の実?(においをかいで)うわっ。なんだこれ。木の実をいっぱい集めて、発酵させて、そうか、これ、酒か。酒を造ってるんだ。これ、呑んで、酔っ払う?(のんでは、千鳥足の様子を見せる)

金、うれしそうに一緒にやってみせる。

漫画家 ということは、あなた、酒がのみたくて脱走したのか。

金、うれしそうにうなづく。

漫画家 大勢の人が戦争で命を落としているって言うのに、どういことなんだ。酒を飲むために軍隊を脱走するなって、あなた、まともじゃないよ。なんていう、なんていう(叫ぶ)

突然叫ばれて、金驚く。

漫画家 素晴らしい人間なんだ！一杯飲ませてくれ。

金、うれしそうに杯を持ってくる。2人、酒盛りを始める。

漫画家 (飲みながら身振り手振りをまじえ) こうしようよ。おれ、ここで寝るからさ、あんた、そこで寝ればいいじゃん。それで、教えてもらったら、木の実、とってくるよ。他にも食べられる草とか木の実とか見つけたからさ、とってくるののおれの仕事にしてさ、あんたは酒造りに専念すればいいって。協力して暮らそうよ。え、じゃあ、おまえさっそく木の実とってこいって。お安いご用だ。ちよつと行ってくる(退場)。

第10話 2013・コヨーテしかその道知らない3

すれ違いで灰塚が漬け物たるを手にすると、まちの劇団の稽古風景になる。
灰塚、赤城、空

金医師 (食べてみる) ドクター白石、あなたは才能があるね。

赤城 (黒木の代役をやっている) それほどでも。

金医師 私は料理の才能がなくてね。私の祖父は、ものを発酵させてものを作る名人だったが私は受け継ぐことができなかった。

赤城 はいっ。灰塚さん、「はっこう」。アクセント違っています。

灰塚 「はっこう」。シビアー。「はっこう」

赤城 このままコヨーテががポスター描くところやりましょうか。

黒木さんいないし。

空 (登場して) あいつもうメンタルやばくなってんじゃね。

灰塚 ヤなこと言うなよ。

空 このまま来なくなるかもだよ。代わり考えといた方がいいよ。

灰塚 来れないっていう連絡は？

赤城 ないわ。とりあえず、稽古しましょう。

赤城、シルバになり、ポスターを描く。

空、コヨーテになって登場

コヨーテ 鬼

シルバ 牛だよ。

コヨーテ ええっ。

シルバ そこまで驚かなくても。

コヨーテ 下手にもほどがあるだろう。こんな牛はいないよ、ここまで下手だとポスターとして役に立たないな。

シルバ (黙って絵筆を渡す)

コヨーテ 何？

シルバ 描いてください。

コヨーテ おれが？

コヨーテ、描き始める。

コヨーテ 姉貴は絵が好きだった。

シルバ 姉さんがいるんですね。

コヨーテ 死んだよ。政府軍に撃たれた。

シルバ そうですか。

コヨーテ あんた、家族は。

シルバ 10歳の時に別れたきりです。私は誘拐されて。

(言葉が出なくなる)

仕返しは考えなかったのか？

シルバ 仕返しをすれば家族に会えるんですか？仕返しをすればお姉さんが生き返りますか。合唱の練習に来ずに部屋でふてくされてたら、ゲリラの仲間のところに戻れるんですか。

コヨーテ できたぞ。

ポスターを渡す。

シルバ うまいじゃないですか。

コヨーテ こういう理解でいいか。生水や生肉の中には小さな魔物が住んでいて、人の体に悪さをするから、火を通して、退治してから口に入れる。そうすれば病気になるらない。

シルバ 小さな魔物ではなくて、細菌です。

コヨーテ 細菌って、どんな顔だ。

シルバ 顔はありません。

コヨーテ 顔なしか。怖いな。

シルバ ありがとう。

コヨーテ 礼を言われる筋合いじゃない。子どもたちのためだろ。あんたたちのためじゃない。

シルバ 分かっている。でもありがとう。

赤城 はいっ。ええと、

白石先生とドクター金の対立のところをやりたいんだけど。役者が

空 いないんだよね。黒木さん来るまで代わりにあたしが読むわ。
メンタルだから、こねえよ。今ごろ首つってんじゃね？

灰塚 そういう言い方やめろ。

赤城 白石先生、読んでみます？

白石 私、無理。

空 自分の役なんだから、いいんじゃない？

白石 そのじゃねってのやめなさい。いらいらする。

赤城 じゃあたし読むね。

白石 いや。ちょっと待って。やってみるわ。

灰塚 お、先生、女優デビューか。

白石 手伝うだけよ。黒木さんが来るまでね。

白石、台本を手にする。

白石 なんとかならないんですか。

金医師 無理だよ。コヨーテは有名すぎるんだ。引き渡さないと政府軍が黙っていかない。

白石 私たちの活動の理念に反するでしょう。中立なんだから、政府軍に協力するいわれはないと思います。

金医師 現実、思うようにいかないことも多いよ。
白石 そんな考えは間違っていると思います。あなたが正義に反する判断をするなら私は、ジュネーブに報告しますよ。

金医師 正義って言うのか？正義？見えない。愛？見えない。平和？見えない？中立？国際的信義？条約？全部見えない。見えるのか？私に見えるのは患者だ。腹膜炎の患者、両足骨折の患者、破傷風の患者。あんたは見えないものを見ようとしている。そんなものはないんだ。神風？日本人は存在しないものを信じて、私の先祖の国を侵略した。神風なんかなかったんだ。日本人はいつも、見えないものを見ようとするんだ。

白石 (間) 風は吹きました。1274年、中国が日本を侵略しようとした時に。風が吹いて船を沈めたのは事実です。

金 だれが歴史の話をしているんだ。

白石 あなたです。やめましょう。私たちは不毛な議論をしている。あと少しの間ですが、今はあなたがここの責任者です。あなたが決めてください。

金医師去る。

白石 ちくしょう。

赤城 はいっ

みんな、劇団員に戻る

白石 赤城さん

赤城 はい。

白石 どうしても許せないことがあれば意見を言ってもいいと。

赤城 はい。ありましたか。

白石 (指さし) これは言ってます。私は元寇の話をしていません。

赤城 創作させていただきました。

白石 なぜ。

赤城 言われっぱなしじゃない方がいいでしょう。中国人に。

白石 言い返せばいいんですか。言い負かせば、もっと思いんですか。そう

じゃないんです。国境を越えて、人と話すっていうことは、そういうことじゃないんです。

赤城 分かりました。「アフリカスケッチブック」にとって最良のあり方を、私が考えます。

劇団員、白石を置いて去る。

第11話 アトリエ・ジャマイカ

入れ替わりに黄川田登場

白石 あれ、何？アトリエの前の……

黄川田 あ、私の作品よ。オブジェ。タイトルは「バカにかける橋」。

白石 バカとか死ねとか……

黄川田 脅迫状とか嫌がらせに送りつけられた死んだ虫入りの瓶とかがだいぶたまったからさ。なんかに使えないかと思ってね。

白石 だからって

黄川田 高速道路の形に組み立ててみたのよ。うまくできてるでしょ。

白石 危なくないの。そんな挑発的なことして。

黄川田 アリ・ブラウン博士が見に来ることになったのよ。

白石 誰？

黄川田 洞窟絵画研究の世界的な権威だよ。わざわざUCLAから来てくれることになった。彼女が、これは本物だって一言、言ってくれたら、この騒ぎも落ち着くよ。別の大騒ぎになるけどね。

白石 すごいじゃない。

黄川田 高速道路をどうしてもつくりたい人たちが逆にヒートアップしてるのよ。脅迫状、3倍くらいに増えたもの。

白石 でも、もしブラウン博士が本物じゃないと言ったら。

黄川田 そうね。どうしようかな。

白石 高速道路ができて、洞窟が壊されるわけじゃないんだよね。

黄川田 そう。入り口がふさがれるだけ。

白石 だったら、洞窟絵画はなくなってしまうわけじゃない。未来に、黄川田先生みたいな人が現れて、また見つけてくれるかもしれない。死ぬんじゃない。眠りにつくだけだと思えば、先生言ったじゃない。あいまぼかし。本物かもしれないし、そうじゃないかもしれない。あいまいさを楽しめば、いいのよ。

黄川田 それも考え方ね。でも私は、みんなに見てほしいんだよね。1万年前の、私たちの先祖がここで絵を描いてたんだって、知ってほしいんだよね。

白石 それは分かるけど。

黄川田 ラスコウ洞窟の絵の前からは石でつくったナイフが見つかったの。戦いや狩猟に使うような武器がなぜ必要だったと思う？

白石 洞窟の中で戦いがあった？

黄川田 ヨーロッパホラアナライオンがいたの。

白石 古代のライオン？

黄川田 化石が見つかった。当時はアフリカだけじゃなくて、ヨーロッパにもいた。主に洞窟にすんでいたから、武装してないと襲われる危険があった。考えてみて。洞窟の中は真っ暗だった。彼らはランプをともして絵を描いたの。だれも絵を見てほめてはくれない、もちろん売り買いもできない、ライオンに襲われる危険まである。

白石 それでも画家たちは、描いた。なぜ？

黄川田 私にはわからない。

白石 祈りだったから。いたずらがきじゃない。祈りなの。星の下で、シカやイノシシを取る暮らしがいつまでも続きますように。いつかは鳥のように空が飛べますように。祈りなの。その祈りとしての絵を、1万年の時を越えて、私たちは見てあげることができる。

白石 先生、それは特別な人の考え方もしれない。

黄川田 そうかな。

白石 世の中の人は、そういうことに興味がなくて、日々の生活、明日の魚とか肉をどう食べるか、そういうことにしか興味がなくなっているのよ。そういう時代に、先生の夢は、なかなか理解されないよね。

黄川田 魚とか肉ね。それも大事だけどね。

第12話 1945・中国の洞窟で2

客席側から漫画家と金登場。水谷、黄川田は去る。

漫画家

あああ。酒もいんだけど、魚とか肉を食べないと体が弱っちゃうよ。このへん、イノシシとかいないの。(身振りをして通じないので洞窟の壁にイノシシを描く)ポニャポニャポニャ、と。

金

ポニャポニャポニャ(まねしてイノシシを描く)

漫画家

よく親子でいるよね(子どもイノシシも描く)ポニャっと。

金

(まねして描く)ポニャっと。

漫画家

もうちょっとこのへんはこうポニャリンと(指導する)。

金

ポニャリン。

漫画家

うーん。イノシシは難しすぎるか。カエル描いてみようか、カエル。

金

ポニャポニャポニャのポニョポニョ(とカエルを描く)。

漫画家

ポニャポニャポニャのポニョポニョ(とカエルを描く)

漫画家

カエルじゃねえよ。これ。下手だなあ。分かった。トンボなら描けるだろう。ポニャラランのポニョニョ(トンボを描く)

金

ポニャラランのポニョニョ(トンボを描く)

漫画家

うーん。

金

(どう?という感じで)ポニャラン?

漫画家

(だめだな、という感じで)ポニャー……

金

(もう1回描くね、という感じで)ポニャポニャ?

漫画家

(もう1回トンボを描いてみせる)ポニャラン?

漫画家

ポニャー……。これじゃ絵画教室だな。ま、いいか。この間歌を

金

教えてもらったお礼だ。徹底的に指導してやるか。ちょっと待って

金

な(退場)。

漫画家

ポニャ?(退場する)

金

ポニャ?(退場する)

金

ポニャ?(退場する)

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

13話

2013・コヨーテしかその道を知らない4

漬け物だるを持った灰塚が登場し、白石の役を赤城が読む形で練習している。

白石(赤城)

ではおじいさまは、その日本兵に絵を習ったんですか。

金医師

上達してね、戦後、絵画教室を開いて成功したんだ。

白石(赤城)

その日本兵は、なんて名前だったんですか?

金医師

名前?なんて言ってたかな。マンガカ?そんな名前ある?

白石(赤城)

そんな名字はないですね。本当に日本人かな。

金医師

私は祖父に学費を出してもらったんだ。医者になれたのは、日

赤城

本人のおかげとも言えるね。ここで日本人のあなたと一緒に仕

赤城

事ができたのも、何かの縁かもしれない。

赤城

はいっ。じゃあ、シルバとコヨーテのところやります。

赤城

灰塚さん、黒木さんに電話してくれる。

空 もうあきらめて別の役者探した方がいいよ。

灰塚 今から探してたら間に合わないよ。本番直前で、すごいシビアなことに。

空 だからあんなに言ったのに。

赤城 空君静かに。やるよ。

シルバ、コヨーテ登場。

シルバ ダーヤ村の子どもたちから手紙が来てるの（渡そうとする）

コヨーテ 読んでくれ。

シルバ 「コヨーテさん、ありがとう。おかげで何人も、命を助けてもらいました。本当にありがとう。ポスターは学校の踊り場に貼ってあります。なるべく生水を飲まないように家族にも話しました。いつか、

学校に見に来てください」

シルバ 持って行きますか。

コヨーテ いいよ。

シルバ 裏口のカギは開けてあります。その外の、東に向かう門は、押せば

開きます。そのままダーヤ村に向けて走ってください。安全な道は、あんたしか知らない。やつらは追いつくことができないでしょう。そこで食糧を調達して山に逃げ込んでしまいなさい。

コヨーテ （間）ありがとう。気持ちだけでもらっとく。

シルバ え？

コヨーテ やつらはヘリコプターを持ってる。私はウサイン・ボルトのようには走ることができない。結局、途中で死ぬだけだ。

シルバ 裁判を受けると、死刑になるかも。

コヨーテ 逃げて殺されても同じことだ。いや一つだけ違うな。

シルバ 何？

コヨーテ 山で死ぬば、消えたのと同じだ。裁判をすれば記録が残るだろう。

私がいたことがそういう形で残るなら、それは私にとって、とてもいいことだ。

シルバ 私にできることは。

コヨーテ そうだな。最後に名前を呼んで、さよならを言ってくれ。

シルバ コヨーテ？

コヨーテ それはニックネームだ。本名がある。

シルバ 本名は何て。

コヨーテ プリティピंक

シルバ （笑う）プリティピंक？

コヨーテ 笑うな。私が生まれたときはまだ内戦は始まってなかった。父は医者で、母は看護師。庭には芝生とスプリングラー。私はプリティピंकで、姉はローズフラワー。反政府軍に荷担した疑いで、両親が

つかまり、私と姉はジャングルに逃げて、仕掛け爆弾の作り方を学び始めた。なにが悪いんだ。
シルバ さよなら。プリティピンク。
コヨーテ さよなら、シルバ。

赤城 はいっ(全員、劇団員に戻る。黒木がいる)

黒木 ご迷惑を。

空 ああ、迷惑だね。

赤城 君は黙って。

空 メンタルのやついらねえんだよ。

灰塚 空くん、やめよう。

空 東京行く前は、こいつよかったんだよ。メンタル折れて逃げ帰って

灰塚 くんなら、初めから行くなよ。

空 シビアなこと言わない。逃げ道は空けておこう。

灰塚 なんておれたちがこいつの逃げ道にならないといけないんだよ。

空 逃げなければいけない人間には、逃げ道ほど大事なものはないからだ。追い詰められてると、そうなんだ。逃げ道以上に大事なものなんてない。

赤城 黒木さん、最後まで、やりきるなら、白衣を着て。無理なら、帰りなさい。あなたがどちらをとっても私たちは「アフリカスケッチブック」をつくる。

黒木 (白衣を着る)

赤城 じゃ、ドクター金が詩をつくるところやろう。

灰塚 了解。

空 しらねえぞ

黒木と灰塚が演じ始める。

白石(黒木) (金医師に)ごめんなさい。あのときは言い過ぎました。

金医師 いや、こっちこそ。

白石(黒木) ドクター金、ありがとうございました。

金医師 ドクター白石が来てくれたことで、私にとってこの仕事は特別なものになったよ。患者がみんなで日本の歌を合唱したときのことは、忘れないだろう。ありがとう。

白石(黒木) 私なんか。

金医師 お別れに、詩を作ったんだ。

白石(黒木) 読んでください

金医師 そんな、恥ずかしいですよ。

白石(黒木) お願いです。声で聞きたいんです。

金医師、読み始める。

ポニャポニャ、ポワワン、ポワリンコン

ポニョポニョ、ポワット、ポンポポポーン

ポノポノ、ポワラン、ポポポポポ

ポカポカ、ポロロン、ポロポロリン

ポスポス、ポカポカ、ポヤヤヤヤーン

君が夕焼けのサバンナに立つと

ゾウたちの眠る時間が、歩みを遅らせる

カバたちの血管の中にザイルの輝く川が

流れ続けるように

君は私にとっての世界の中心に

立ち続けている

君のいる場所からアフリカの光は

大陸を貫き、

はるか遠くで、私の日常の何でもないことを、輝かせるだろう

獲物を追うチーターのはやさで人生は過ぎる

何かが止めるとすれば、それは一眼レフのシャッター音か

特別な人、君のほほえみ

君が少女なら髪にリボンを結びたい。

おばあちゃんなら、咳をするとき背中に手を。

以上です。

黒木、せりふが出ない。

赤城 はいっ。黒木さん、台本持ってもいいわよ。

空 マジかよ。

黒木 大丈夫。なしでできます。

赤城 灰塚さん、髪にリボンから。

灰塚 OK

空 マジかよー。

赤城 行きます。はいっ

金医師

君が少女なら、髪にリボンを結びたい。

おばあちゃんなら、咳をするとき背中に手を

以上です。

白石（黒木）

最初になぜポニャポニャって言うんですか？

金医師

我が家に伝わる、別れの悲しみを乗り越える言葉です。

白石

（黒木、はっとして）おじいさまは、もしかすると。

金医師

洞窟で日本兵と別れるときに、その悲しみを乗り越えたと聞いています。乗り越えて、強い人間になったと彼は言っていました。

白石（黒木）

その日本兵は、マンガカさんは、どうなったんですか。

金医師

幸せな時間は、半年しか続きませんでした。ついにどちらかの軍隊が2人のいる洞窟に気づいて、取り囲んだそうです。

戦時中の洞窟になる。劇団員たち、退場。

第14話 洞窟・1945

金、たるを手不安そうにあたりを見回している。遠くで爆発音。銃声。

そこに銃を手にした漫画家、登場。

漫画家

ダメだな。囲まれている。こんな状態だ。

漫画家、壁に銃で2人が軍勢に囲まれている様子を絵で描く。金、頭を抱える。

漫画家

（図を描きながら）2人とも逃げるのは無理だ。おれがやつらをここで引きつけるから、ここに逃げ道ができる。あんたはここからいけ。短い間だったが、楽しかったぜ。

金

（君のことは忘れないよ。君と過ごした時間は一生の宝物だ、という

感じで）ポヨポヨポワポワ、ポヤンポヤン

ポニヤポニヤ、ポワワン、ポワリンコン

ポニヨポニヨ、ポワット、ポンポポポーン

漫画家

おれも同じ気持ちだ。

漫画家、金に背を向け、進み出る。

漫画家

今、「脱走兵か」と聞いたか。そう聞くなら、答えてやる。おれは答えを持って。いいか。よく聞け。脱走じゃない。これは脱走なんかじゃない。独立だ。おれたちはおまえらの国家からも、軍隊からも、完全に独立した。よく聞け。ここは独立国家だ。近づくんじゃない。

おれたちの国は、どこの国とも戦争はしないという憲法を持ち、自由で、民主的な国家を目指している。国立の美術学校を運営し、国立の合唱隊もある。文化国家だ。おまえらとは違うんだ。おまえらは命令に従い、馬のように歩いているだけだ。あるいは牛のように。おれたちは違う。おれたちが決めたんだ。おれたちの領土に近づくんじゃない。おれたちは「にんげん共和国」。人口は。

金 (言うな、という感じで) ポニャポニャポニャ!
漫画家 2!

銃声。金走って逃げる。漫画家は誇らしげに「2」を指で示したまま、静かにストップする。

金 ちくしょう!

暗転。

第15話 アトリエ・ジャマイカ

白石がキャンバスに向かって、黄川田のアドバイスを受けている。

白石 ここをぼかした方がいいのね?

黄川田 そう。ジャングルにさしこむ光、こういうふうにするわ、

白石 わ、一気にアフリカ。

黄川田 さらに(筆をはじく)

白石 わ

黄川田 どう。

白石 一気にジャングルらしくなった。

黄川田 線を引くだけじゃ単調でしょ。いろいろやった方が味が出てくるの。

先生だって、医者やるだけじゃなくて絵を習ったり、本を書いたりして、いろいろいい味出してるじゃない。今度は演劇だって監修して。

白石 劇は見に来てよ。

黄川田 行くよ。

白石 役者さんが頑張ってるからね。

黄川田 そういえば、あの子はどうしてる。

白石 一生懸命やってる。

黄川田 そりゃよかった。

白石 でも稽古終わったら、1人でずっと考え込んで。文化祭終わったらどうするのかなって。

黄川田 怖いね

白石 医者にはかかかってるって言ってたけどね。簡単には治らないみたい。

黄川田 社会問題よね。

白石 年間3万人の自殺者がいる国ってどうなの。あたしアフリカから帰ってきた時に思ったんだよ。ああ、戦争の国から帰ってきた。平和な国に着いたんだ、って。でも自信なくなってきたな。

黄川田 50年後か、60年後はもっと増えてるかもね。

白石 いやなこと言うわね。

黄川田 貧富の差がさらに開いて、勝ち組と負け組がはっきりして、一度負けたら、這い上がれない世界。

白石 50年後か60年後に絵画教室はあるのかな。

黄川田 核戦争か原発事故か、あるいはその両方が起きて、住めなくなってるかもしれない。NASAが、地球と環境の似た別の星を探しているって話を聞いたことがある。

白石 それは都市伝説でしょ。そんな予算ないと思うよ。

黄川田 60年後の地球から、別の星に向けて、ロケットを打ち上げるのよ。きっと。未来のアダムとイブたち。200人くらい選抜して。

白石 あたしたち選んでもらえないね。生きていたとしても年寄りすぎて。

黄川田 でもきつと医者と絵描きは1人ずつは必要よね。ロボットにはできない仕事なもの。SF映画の世界ね。

白石 この人たち、(観客席をさして)映画を見ているんだった？

黄川田 そうよ。昔のミュージカル映画。

白石 あっちにあるのは？

黄川田 イラクの米兵が見てるのはスパイダーマン。

白石 なんで映画を見ている人の絵を描くの。

黄川田 映画を見ている人の顔が好きなのね。夢中になって、みんな心が一つ becoming。それぞれ、いろいろな人生を抱えながら、映画館に来てるのよ。貧しさも、孤独も、戦争で死ぬ不安もある。デートの楽しさや、未来への期待や、外国へのがれも。みんな持っているものは違うけど、心は一つ。それがいいんだ。

白石 このまちにも映画館があればいいのにね。

黄川田 昔はあったんだけどね。

白石 あったよね。古い映画をやってた。高校生のとき行ってたよ。

黄川田 何を見たの？

白石 え、「燃えよドラゴン」とか。あと「酔拳」とか「蛇拳」とか「少林寺」とか。

黄川田 なんで全部カンフー映画。

白石 面白いじゃない。

黒木、ぼうぜんとして入ってくる。

黄川田 黒木さん、どうしたの？

黒木 先生

ただごとでない表情で、外を指さす。黄川田と白石、顔を見合わせる。2人で窓に近づき、カーテンを開ける。ショックを受けて、3人黙る。

黄川田 (プロジェクトXのナレーションの物まねで) 人々は、息をのんだ。

白石　そこにあるのは、信じられない光景だった。
プロジェクトX、もうやってないよ。

黄川田　（物まねを続ける）大切に育てられてきたバラ園のバラは、1本残らず、切り落とされていった。黄川田は、声も出なかった。ただ、失われてしまった、手塩にかけたバラの花たちのことを思っていた。
白石　あいつら。こんな嫌がらせを。

黄川田　このまちはかつて、戦争中の米軍の空襲で焼き払われた。黄川田はそのときのことを思った。まるでそのときのように理不尽だと。
白石　だからプロジェクトX、もうやっていないって。

爆発音と、サイレンの音がどんどん大きくなっていく。3人、去る。

第16話　1945・藤野家の3姉妹

爆発音。サイレンの音。客席から翠、紫乃、桃が飛び込んでくる。

紫乃　翠姉さん、逃げよう。

桃　早く逃げよう。もう火が回ってくる。

翠　橋が次々に焼け落ちてるって聞いた？東の相生（あいおい）橋しか残っていないって、

紫乃　え？あたしは北の中央大橋しか残っていないって聞いたわ。

桃　あたしは西の佃（つくだ）大橋しか残っていないって聞いた。

翠　どの話が正しいのよ。

紫乃　姉さんのは、たしかな話？

翠　そんなのわかるわけない。

爆発音。

紫乃　桃の聞いたのは？

桃　走りながらそう叫んでいる人がいたってだけ。本当かどうかなんて。

翠　紫乃が聞いたのは？

紫乃　あたしも似たようなもんだわ。

翠　どうしたらいいの。

爆発音、さっきより大きい。

紫乃　アメリカめ。いいかげんにしなさいよ。

桃　（戦闘機にスケッチブックを向けて叫ぶ）爆弾じゃなくて、炎じゃなくって、パラパラ漫画で戦争しよう。

翠　桃、やめなさい。

桃 どっちがおもしろいのをしてくれるか、人を笑わせるか、泣かせるか、それでたたかおうよ。あたしたちきつと勝つよ。

紫乃 やめなさい。桃。

翠 どうしよう。このままじゃ死んじゃう。

桃 聞いて。こうしましょう。それぞれの聞いた、残された橋に向けて走るの。

紫乃 別々に？だめよ。3人一緒じゃないと。

桃 いい？聞いて。同じ橋に向かって、その橋が焼け落ちていたら、3人

とも死ぬかもしれない。

紫乃 いいじゃない。3人一緒に。

桃 だめ。3人とも死んだら、誰があたしたちのことを思い出すの？1人でも逃げ道を見つけられたら、他の2人のことをずっと覚えてる。いい。その1人の中で、2人が生きられる。3人とも死んだら、私たちはこの世から、消えてしまう。

翠 桃の言うとおりにしよう。

紫乃 姉さん。

爆発音

翠 3方向に逃げるの。急ぐよ。

桃 いい。助かった1人は、他の2人のことを絶対忘れない。

紫乃 分かった。

桃 それから、一生懸命生きて、夢をかなえる。

紫乃 夢？

桃 他の2人の分、生きるんだから、絶対そうする。紫乃姉さんは、桜の木を植えるのよ。桜の咲く庭を作って、花見客呼んで、アコーデイオン弾くの。

紫乃 分かった。

桃 翠姉さんは、絵を習うの。

翠 桃は？

桃 ペンギンを飼う。

爆発音。

翠 行くよ。

紫乃 分かった。絶対、2人のことを忘れない。

桃 忘れない。

3人 忘れない。

3人、3方向へ走り出し、姿を消す。爆発音が続く。

暗転

第17話 洞窟の中

黄川田、洞窟の中で壁画を見つめている。

青山議長、登場。

黄川田 議長

青山 どうでしたか。

黄川田 どうって。

青山 ブラウン博士ですよ。なんて言っていました。

黄川田 結論はすぐには出せない。アメリカに帰って、

写真を分析してから鑑定書をつくりましますよ。

1カ月はかかるそうよ。

青山 印象は。

黄川田 五分五分。

青山 そうですか。

黄川田 どうだろうね。アメリカ人は、表情ではよくわかんないんだ

よね。ただ、じっと見てた。あれは、真剣に人生をかけて絵

を見てきた人の目だ。どんな結果になったとしても、あの目

で見た結果なら、私は受け入れるよ。

黄川田 私は負けるんでしょうね。

青山 議長

黄川田 高速道路を通すために、20年かかりました。私は私なりに

人生をかけてきたんです。でもこのシカや星のために、長い

ことかけて描いてきた絵が消しゴムでゼロにされる。

黄川田 議長、シカと星って言った？

青山 言いましたよ。

黄川田 シカと星に見えるの？

青山 見えますよ。そこにイノシシ。それは鳥ですかね。初めから、

黄川田さんが正しいと思ってます。たしかに、これは絵です

よ。

黄川田 じゃあなんで

青山 高速道路じゃなければダメなんです。この地域を発展させる

のは。半島の先端から魚介類を運び、観光客を都会から運び、

山から木材を運ぶ。高速道路がなければ、この地域はいつま

でも発展から置いて行かれたままだ。2020年までに開通

するのが大事なんです。

黄川田 この絵、観光資源になる。

青山 ずっと考えてました。でも無理です。こんな洞窟の奥まで、

何を描いたかはっきりしない絵を見に来る人なんていません。高速道路じゃなければダメなんだ。なのに、古代人のらくがきが、すべてをぶち壊していく。

黄川田 らくがきじゃない。

青山 ああ、なんで人間は絵を描くんでしょうね。

黄川田 弟が大阪でタクシーの運転手をしていてね。ある夜、変な客を乗せたんだって。

青山 変な客

スプレー男、登場

スプレー男 駅まで行ってえや。あ、途中、児童公園の前でちよつとだけ止めて。

黄川田 弟は、公園の公衆トイレに行くんだと思った。ところが、男は公園の公衆トイレの壁に向かってスプレーで絵を描き始めた。そう、それは見事なチョウの絵を描いた。

青山 チョウ？

黄川田 弟は驚いて、タクシーに戻ってきた客に、なんでそんなことをするのか聞いた。

スプレー男 (しばらく考え、叫ぶ) しゃあないやないか。描きたいねんから。

スプレー男、退場

黄川田 結局、そういう人間はいなくならない。別の惑星に移住する時代になっても、きっとそういう人間はいる。人は絵を描き続ける。

青山 別の惑星に移住する時代のことはどうでもいい。私には、2017年の、このまちのことだけが大事なんだ。未来も過去もどうでもいい。

黄川田 謝るよ。

青山 なにをですか。

黄川田 おみこしを壊して悪かった。

青山 そっちですか。

黄川田 壊すつもりはなかった。

青山 私は覚えています。黄川田さんが落ちてきたとき、私は夢を見ているのかと思った。まるで天使か妖精でした。あんなに美しい高校生が、あんなに高いところから落ちてくるなんて、本当にいろいろなものを壊しますね。

黄川田 悪いね。

青山 五分五分と言いましたね。フエアにいきましょう。ブラウン博士が、あれは絵じゃないと言ったら、もうそれ以上、反対運動は

黄川田 わかった。その代わりに、古代絵画だということになったら

青山 保存のために努力しましょう。約束しますよ。

黄川田 来週、文化祭だね。「アフリカ・スケッチブック」いよいよ上演だ。

青山 ああ、話題になってますね。前売り券、完売らしいですよ。

黄川田 2枚買ったんだけどさ、一緒に行くかい。

青山 さすがにこの2人が一緒に見るわけにはいかないでしょう。

黄川田 そうだね。

2人、笑う

暗転

第18話 2013・コヨーテしかその道知らない4

白石と金医師、金医師は帰国の準備を終えたところのようだ。劇はほぼ完成に近づいている

白石(黒木) ドクター金、いろいろありがとうございました。

金医師 こちらこそ。

白石(黒木) まだ少し時間があります。最後に(グラブを渡し)キヤッチボールしましょうか。

金医師 ボールがないんだよ。すごいスラッガーがいて、地雷原までかっ飛ばしちまって。決死隊をつくって取りにいかせようとしたけど、だれも手をあげなかったんだ。投げますよ。ドクター金。

架空の球を投げる。

金医師 は？

白石(黒木) 取ってください。ドクター金。

金医師 なんですか？

白石(黒木) (2球目を投げて) 目に見えないものは、どうしても信じられないですか。

金医師 ドクター白石

白石(黒木) カーブです。ドクター金

金医師 (とって投げ返すかっこう)

白石 (とって投げ返すかっこう)

金医師 スライダーです。ドクター白石

白石(黒木) そんな(とって)。フオークボールです。ドクター金。

金医師 (とって投げ返すかっこう) 牛のふん付きのボールです。ドクター白石

白石(黒木) 小学校低学年男子ですか。(とって投げ返すかっこう)

う) 馬のふん付きのボールです

金医師 (とって投げ返すかっこう。笑う)

白石(黒木) (とって投げ返すかっこう。笑う)

シルバ、出てきて、2人の医師を不思議そうに見守る。2人、笑いながらキャッチボールを続ける。音楽高まる

赤城 はいっ。おつかれさまでした。ここまでにしませう。みんな集まって。

劇団員、集まる。

赤城 明日は本番です。分かってるだろうけど。みなさんにまずお礼を言います。私のわがままにつきあってくれて、ありがとう。

シビアーだった？

灰塚 シビアーだった。

赤城 みんなにシビアーだったと思います。空君にも、(強く)黒木さんにも。でもきつと、明日みなさんの言葉は、お客さんに届くでしょう。この劇は初演です。今後、アフリカスケッチブックが何度上演されるとしても、空君は最初のコヨーテで、黒木さんより前に白石先生を演じた人はいない。みなさんがつくったの。その誇りを持って明日は舞台に立ってください。ありがとうございました。ありがとうございました。

全員 ありがとうございます。

赤城 白石先生、お客さん。

白石 あたしに？

赤城 なんか外国の人。要人みたい。

白石 誰かな。

コヨーテと通訳登場。劇団員ら、去る。コヨーテは杖をつき、かつてのテロリストが責任ある地位についたことがわかるように演じる。コヨーテはスケッチブックを持ち、それにメッセー

ジを書いて、通訳がそれを見て翻訳して、話す。

通訳

プリティピンク・リチャーズです。声が出なくて、話せないことをお許しください。リハーサルを見せてもらいました。

白石

驚きました（通訳が訳し、コヨーテ書く）。

通訳

きょうしか来ることができませんでした。日程がっこうがつかまませんでした。でもとても感動しました。ありがとうございます。私を演じた彼にも、感謝を伝えてください。

白石

大臣になったこと、聞きました。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

先生がいなければ、私はあの病院で死んでた。先生のおかげです。

白石

私たちはあなたを政府軍に引き渡した。感謝する必要はありません。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

たしかにあと1カ月、反政府軍が首都を制圧するのが遅れたら、私は処刑されていたでしょう。ひどい拷問を受け、ほとんど声がでなくなりましたが、命はある。これも運命です。

白石

でも、本当によかった。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

ありがとうございます。日本には、視察で来たのですか。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

きのう国際会議に出席しました。きょうはJICAに寄って、青年海外協力隊の派遣について意見交換しました。そしてその足でここへ。

白石

私に会いにきてくれたのですか。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

実はお願いがあつて来ました。

白石

なんです。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

先生もう1度、私の国に来ていただけませんか。憲法を改正して、外国籍の人も国立中央病院の院長になれることにしています。先生の知識と判断力を私の国のために生かしてほしいんです。

白石

リチャーズ大臣、私にはここですべき仕事があるのです。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

それはどうしても優先すべき仕事ですか。

白石

小さな診療所ですが、私がいなければ、代わりがないのです。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

残念です。先生は一度言ったことを変えない人でしたね。よくドクター金とけんかを。

白石

そのかわり提案があります。かつてあなたの国で政府側にいた人たちの多くが、難民となって隣国に流入しているという話を聞きました。何万という数だとか。その中に適任者がいると思います。探し出して院長に任命してください。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

先生、お忘れですか。私の家族は全員、彼らに殺されたのです。

白石

だからこそ、あなたがそれを提案すれば、説得力があるのです。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

残念です。私には先生の言っていることが理解できません。

白石

それは私も残念です。（通訳が訳し、コヨーテが書く）

通訳

でも先生、いつか、私がそれを理解できる未来が来るのかもしれません。私はそれを願います。

白石

私입니다

コヨーテ

（絞り出すように声を出して「赤とんぼ」の一節を歌う）

夕焼けこやけの赤とんぼ、おわれてみたのはいつのひか（通訳にとめられ）さようなら。ドクター白石。あなたにはもう会えない。でも本当にありがとうございます。

白石

ありがとうございます。コヨーテ。

溶暗。

第19話 アトリエ・ジャマイカ

黄川田がアトリエにいる。黒木が入ってくる。

黄川田 劇、終わったみたいね。

黒木 はい。

黄川田 あたしは昨日見たけど、面白かったよ。

黒木 ありがとうございます。

黄川田 キャッチボールするところが特にね。

黒木 あそこは私も好きです。

黄川田 次になにかやることを見つけて、それを完成させるまで頑張ればいいよ。そこにキャンバスがある。何か描いてみればいい。

黒木 先生ありがとうございます。

黒木、キャンバスに近づこうとしない。

黄川田 だめなのかい。

黒木 夢を見ました。よく見る夢なんです。足元からサメが出てくる

んです。廊下を突き破ってサメが、逃げたら、テラスのコンクリートを突き破ってサメが。道に出たら、アスファルトを突き破ってサメが。コンビニに逃げ込んだら、その床を突き破ってサメが。商店街に逃げたら、タイルを突き破ってサメが。逃げても逃げても、数がどんどん増えていって、あたしのジーンズにかみつき、Tシャツにかみつき、あたしは血だらけになって、岬に追い詰められる。淡雪岬。海のかなたから、青い雪を降らせながら、雲が近づいてくる。風の吹く静かな岬です。私は何百匹ものサメに追い詰められて、雲に向けて身を投げます。ぐうっと海に引き寄せられて、ぎざぎざの岩がどんどん大きくなってきて、ぶつかった瞬間、うわあって、うわあって、私はたくさんのムラサキのチョウになって、海の上に広がるの。海の上いっぱいを埋め尽くすようなチョウの大群は、雲を目指して上昇していく。そこで目が覚める。救われたって思った。救われたって。

黄川田 現実はどうじゃない。身を投げた瞬間にあんたは失う。岬の草色、空の群青色、光の白、チョウの紫、海を染めるたくさんの色。あんたのパレットから、すべての色がなくなる。逃げればいいじゃないか。逃げて逃げて逃げまくったらいい。逃げてる間に、すべての美しいものがきっと見えてくる。バラも、海も、風も、夕日も、桜も、ヨットも、鳥たちも、チョウも、全部、全部見るだけでいいじゃない。それだけでいいじゃない。逃げながら、そういうものを見て、美しいと思うだけで。それで、十分、生きてるってことじゃない。それさえ、捨てちゃうのかい。

黒木、去る。黄川田、静かにいすに座る。

白石と青山が登場。

白石 ブラウン博士から鑑定書が届きました。

黄川田 先生、読んでくれる？

白石 私が？

黄川田 お願い。

青山 市議会としても立ち会わせていただきたい。

白石 いいけど、内容は尊重してね。

青山 それは聞いてから考える。

白石 (封筒を開ける) 結論。鹿間洞窟の中のシカ、魚、クマ、に見える部分は、いずれも岩が偶然にそうした形に変色したとみられ、絵画とは認められない。星に見える部分は、カエデ科の植

物の化石と思われる。絵画とは認められない。

追記。例えば古代の日本人が、これまで世界中に知られていない方法で岩を変色させ、絵を描いていた可能性まで否定はできません。しかし現代の科学では、これを絵画だと認めることはできません。残念ですが、これが私たちの一致した結論です。

青山、大喜びする。

黄川田 青山議長、おめでとうございます。

青山 ありがとうございます。あなたの潔さに感謝します。あなたにまだ嫌がらせをするようなやつがもしもいたら、私に言うてください。そんなことはもう2度とさせません。

白石 彼らはあなたの友達なんだね。

青山、去る。

黄川田（間）ちくしょう

白石 手紙には続きがあるの。

黄川田 続き？

白石 ブラウン教授から。私はラスコーやアルタミラ洞窟のような洞窟絵画が新たに見つかるのを夢見てきました。日本であなたで見つけたと聞いて、心が震えました。見るまで眠れなかった。結果は違いましたが、私はあなたに感謝します。

黄川田 洞窟絵画は見つけようとする人がいなければ、絶対に見つかりません。洞窟に入って、これは絵じゃないか、って考える人がいなければ、永遠に続く古代人の祈りに、私たちは触れることができません。私たちは、限られた時間と空間の中を生きて、終わるんです。先生のような人が夢と想像力を持って、洞窟の壁や天井に目をこらすから、生まれたんです。奇跡が。ありがとうございます。

白石 先生、詩を贈るわ。

黄川田 詩？作るの？

白石 作らないわよ。あたしがもらったんだけど、先生がもらう方がふさわしいと思ったの。ちゃんとは覚えてないけど。こういう詩よ。

君が夕焼けのサバンナに立つと

ゾウたちの眠る時間が、歩みを遅らせる

カバたちの血管の中にザイールの輝く川が

流れ続けるように

君は私にとっての世界の中心に
立ち続けている

君のいる場所からアフリカの光は
大陸を貫き

はるか遠くで、私の日常の何でもないことを、輝かせるだろう
ジャマイカの陸上選手のはやさで人生は過ぎる

何かが止めるとすれば、それは一眼レフのシャッター音か
特別な人、君のほほえみ

ポヨポヨワポワ、ポヤンポヤン

ポニャポニャ、ポワワン、ポワリンコン

ポニョポニョ、ポワット、ポンポポーン

あと忘れた。

黄川田　なんで最後ポヨポヨとかになるの。でも、ありがと。

翠　ポノポノ、ポワラン、ポポポポポ

ポレポレ、ポラポラ、ポロイポロイ

馬が走るはやさで、人生は過ぎていく。

ポンポン、ポコポコ、ポロンポロン

でもそこに光がある。

君がいれば。

君が少女なら髪にリボンを結びたい。

おばあちゃんなら、咳をするとき背中に手を。

今は見ているだけだけ。

ポニャポニャ、ポニャポニャ。ポニャンポニャン

藤野さん！どうして？

黄川田　どうしたの？

（翠に近づき）なんで知ってるの？

翠　先生、あたしにスケッチブックをください。早く描かないと。そ

れは、とても速くて、すぐに通り過ぎていってしまうの。先生、

あたしに、早くスケッチブックをください。

白石、翠にスケッチブックを渡す。翠はそれを広げるが、何も描
かずに悲しそうにする。

黄川田　高速道路ができれば、洞窟は完全にふさがれるんだった？

白石　（黄川田に）設計図ではそうだった。建物が入り口のそばまで

来るの。だれも入れなくなる。

黄川田　思いついたことがあるの。

青山、飛び込んでくる。

青山 先生。

白石 どっち？

青山 白石先生、すぐに来てください。自殺体が流れ着いた。検視が必要だって。

黄川田 若い女の子？

青山 なんて知ってるんです。

白石 (黄川田と顔を見合わせる) このまちの子？

青山 すぐには分からないと思う。

白石 なんで？

青山 流れ着いたのは、下半身だけだから。

白石と青山去る。

黄川田はゆっくりと立ち上がり、語り始める。

洞窟になっていく。

第20話 洞窟でのエピソード

洞窟の中にアトリエの生徒が、全員集まっているようだ。

黄川田 私たちには限界があります。生きている時間も空間も限られています。すべてにおいて自由でもありません。この世界にできることは多くはないかもしれませんが、でも、ゼロではない。きょうは集まってもらってありがとうございます。ここに古代人の壁画が描かれていると主張したことで、私はまちじゅうに非難され、ネットでもさんざんたたかれました。でも、誰もアトリエをやめなかった。うれしいわ。

先生、頑張れ。

白石 ありがとうございます。で、洞窟の前に高速道路の橋脚をつくる計画が再浮上し、あっという間に決まっちゃいました。ということで、この洞窟は今後、だれも入れません。それでね、私は思ったの。ここに古代人の壁画がないのなら、その壁に何を描こうが現代人の自由だって。ここはタイムカプセルよ。誰も入れないから、誰も消すことができない。みなさんの描いた絵はずっと残ります。ここは時空を超えた場所になるの。アルタミラ洞窟やラスコー洞窟の壁画のように。私たちの死んだずっと後まで。私たちが残したものを描けばいいと思うの。描きましよう。ここにホラアナライオンはいません。ここは、にんげんの国です。現代のクロマニヨン人たち、人口20人。描きましよう。みなさん。こちらの壁には好きなものを描いて。なんでもいい。自分の描きたいものを。

白石
黄川田

こちらの壁には、映画館で映画を見ている人を描いてほしいの。心を一つにして、映画を見ているたくさんの人を描きましょう。先生、なんの映画にしようか。

アニメーション映画がいいな。ディズニーでもジブリでもいい、なんでも自分の好きなアニメ映画を見ている人を思い浮かべて、描きましょう。

音楽。人々が絵を描き始める。山を描く、木を描く、森を描く。

翠（おばあさん）は3人姉妹を描く。少女たちはしっかりと手をつないでいる。

コヨーテとシルバが現れる。2人は協力して「銃を捨てて、笑顔で暮らそう」のポスターを描いてみせる。白石に笑顔を見せて、去る。

スプレー男、スプレーでチョウを描いて去る。

漫画家と金が現れる。漫画家はおばあちゃんの描いた3姉妹の一人の髪に小さなリボンを描く。おばあちゃんの肩に触れ、去る。金は酒瓶を描いて去る。

紫乃と桃が現れる。2人は、3少女の絵にペンギンと、桜を書き足す。翠に話しかけ、車いすを押して去る。

舞台の上に、映画館の客席が出現し、人々は映画館を訪れた人のように着席して止まる。彼らは映画を楽しんでいる絵の中の人物になる。静かに実際の客席と向き合っ、映画を楽しむ様子で動かない。黄川田だけが残り、完成した絵の前を歩き、じっと見つめる。

黒木が登場する。絵を見て、満面の笑顔になる。

黄川田と目を合わせ、ほほえみあう。

黒木は手に持ったパレットを黄川田に渡す。

2人は絵を見つめる。

溶暗 幕

参考文献

- ・大人が楽しむひとふで描き(チームひとふでんず)
ユナイテッドブックス
- ・アルタミラ洞窟壁画(アントニオ・ベルトラン)
岩波書店
- ・美術史家、地球を行く(木村重信) ランダムハウス講談社
- ・「国境なき医師団」が行く(貫戸朋子) ウエイツ
- ・世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団(山本敏晴) 白水社
- ・無言館ノオト(窪島誠一郎) 集英社新書
- ・ラスコー展 図録(TBS出版)